

ありすの杜きのご南麻布 正垣 幸一郎

海外研修 週間 報告書

第3週目 5/5~5/11

日付	曜日	AM	PM	備考
5/5	日	休み	休み	
6	月	Hattstugan	Visby	
7	火	Hattstugan	Hattstugan	
8	水	Hattstugan	Hattstugan	
9	木	休み	休み	
10	金	Hattstugan	Hattstugan	
11	土	休み	休み	

<感想>

5/5 休み

5/6 午前中は Hattstugan で勤務。土日を含んだあとどうなるのかとても不安だった。先週とても気に入ってくれていた女性 Mari-Ann は私のことを見たことがある人という感覚だった。私は先週のかんじで距離を縮めようとするが、彼女はあまり私を近づけようとはしない。やはり、そんなに簡単ではない。信頼関係を作るのは。しかし、今日は朝の薬をスムーズに服用して下さった。この施設でケアが大変なのは Mari-Ann と Anita と Tina、Annette だと感じるそれぞれに大変さはちがう。Mari-Ann は気性が荒い感じがする。怒るとフォークを投げようとする動作をしたり、いろんなところから物を持ってきては隠したりする。Anita は「早く」「落ちる」「コーヒー」「助けて」などと大声で叫ぶ。Tina は若年性の認知症独特の感じ。感情の起伏が激しい。そして落ち着かない。言葉もはっきりしない。Annette は何となく発達障害っぽい要素があるように感じる若年性の利用者。何度も同じことを言う。気になることを何度も言葉にしてしまう。

この日の朝は管理者と一人のスタッフが一緒に Anita のケアを行う。ベッドから起きるのも、立位をリフトで取らせる時もとても静かだ。日本と同じでケアする人で利用者の様子も変わる。丁寧なケアをすれば利用者との関係は縮まる。その後朝ごはんを一緒に食べた後今後のスケジュールリングをする。今週と来週の予定の確認だ。金曜日に料理を作ることになった。15人分程度とのこと。何を作ろうか迷う。来週はクリスが日本から来る。そして15日はストックホルムのシルビアヘメット財団のデイケアを見学する。

午後からは管理者とスタッフが Visby に会議に行くとのことで一緒に車に乗せてもらい Visby に行かせてもらった。二人は別々の会議。管理者は Gotland の各施設の方々が集まる会議。プライマリケアについて話し合ったようだ。スウェーデンでも最期を病院にいたいと家族が言うひとがいるとのこと。でも命は永遠には続かない。病院に行くよりホームの方が「絶対良い」と帰りの車の中で言っていた。私はふたりが会議の間 Visby を観光させていただいたが、その半分は金曜日の献立を考えていた。日本の米に近いものが売っているのか確認していた。

5/7 Tage という男性のモーニングケアを行う。彼はバルーンカテーテルをしている。しかし、一般の人が彼をみてバルーンをしている人には見えない。それは彼のバルーンパックはとても小さく彼の大腿部に包帯のようなバンドで巻かれていて足と一体化している。周りの人に気付かれないようになっている。日本とは大違い。全く考え方が違う。本人が恥ずかしくないような配慮がなされている。誰のために？何のために？という部分が日本には抜けている。この日はもう一人 Annette のモーニングケアに行く。なかなか起きれない様子。彼女は猫が好きなので猫を連れて居室に管理者は入った。そうすると嬉しそうな声で起きて来た。スウェーデンでは朝ごはん前に歯磨きをして、それ以降は寝る前に歯磨きをするだけの一日 2 回の歯磨きのようだ。日本もこれで良いような気がする。

10 時ごろからのお散歩は Anita を外に案内した。大声で叫ぶ人だ。彼女にジャンパーを着せる時、スタッフではなく私に介助して欲しいと要求してきた。そのためスタッフは私にゆだねた。私は言葉がわからない中ではあったが、左上肢片麻痺の方にジャンパーを恐る恐る着せた。左の腕を持ち上げようとすると少し大きな声を上げたがゆっくり持ち上げるとご自身で手伝ってくれる感じだった。両腕を通すことができたが背中の方がうまく着せれない。彼女に少し背中を前に倒して欲しいのだがどう伝えればよいかわからなかった。困っている私に気が付いたのか、彼女は自分から背中を前にして下さった。少し時間はかかったものの着せることができてとても嬉しかった。それを見たスタッフはとても驚いていた。その後彼女と一緒に散歩した。私が車いすを押していると「私は重いでしょ」と少し気にしているようだった。確かに少し重かった。そして企画が日本の物と違うので押しにくかった。また、道路も斜めになっているのでとても難しかった。昼からはゴスペルクワイヤーの方々が来られた。音楽好きの Krista はクワイヤーの声を聴き、涙を流し感動しておられた。音楽の力はすごい。その様子を見ている途中で奥さんの面会もあり彼はそれ以上に涙をながすことになった。自室で家族との時間を過ごしていた。とても感情的な一日となった

5/8 この日は管理者が娘さんを病院に連れていく日なので誰も私についてくれる人がいなかったが、先日私に付き添ってくれたスタッフが色々と教えてくれた。またこの日は 2 週間に一度来る OT の人も出勤日だった。この日は働き者の Astrid が大活躍の日だった。朝食後にアイロンがけ、デザートのパン作りをしてくれた。シナモンロールのようなお菓子。シナモンロールはスウェーデン発祥らしい。Astrid は昔とても貧乏だった話をほぼ毎日のようにする。裸足で 10 km の道のりを冬の寒い日に歩いて学校にいったことを話してくれる。貧乏だったこともあって仕事をするのはあまり苦にならないのではないかと感じた。OT さんは午前中のみ出勤だった。

この日は衝撃的なことが起きた。利用者の転倒だ。この日のスタッフは利用者よりもスタッフ同士が話するのに割と夢中になっており、若年性の Tina が落ち着かない感じだったが割と放置している感じだった、廊下を一人歩いていた Tina が転倒し、「Ah〜！」と大きな声と共にドン、ゴンという音が聞こえたため走って一番に私は駆け付けた。すぐにスタッフを呼び一緒に抱えて起こした。Tina は怖がってしまい足が震えている状態だった。転んだ状態を 3 時からの勤務のスタッフに申し送りをしてその日は終了した。どこの国でも同じだ。スタッフの力量によってとてもケアの質は変わると感じた。スタッフに優しいスタッフは利用者にはきつかったりする。年輩のスタッフにそのような傾向があるように感じる。

5/9 休み 翌日の昼ごはんのために米を炊く練習を宿でする。

5/10 この日は私がお昼ご飯を作る日でとても緊張した。モーニングケアと朝食は Anita と一緒にした。Anita はインスリンの注射が必要な人。モーニングケアに同行させていただいた。その後インスリンを打ち朝食。朝食後、お昼ごはん作りに取り掛かった。米を炊くのも一苦労。測りも無ければ杓もない1カップで200gと仮定して1.2倍の水を入れた。以外に米は上手く炊けた。あと肉じゃがを作った。肉じゃがの肉はベーコンで代用した。この日の出勤者は17人でとても多くてジャガイモだけで大10個近く皮を剥いた。日本から“ほんだし”を持ってきていたスーパーに普通に醤油が売っていたし施設にも醤油がおいてあったのでうまくできた。あとサラダもレタスとコーンとパプリカ、きゅうりを切って完成。しかし、白米はスタッフは気に入ってくれましたがお年寄りが残っていた。食べてくれたのは2名ぐらいだけだった。肉じゃがはみんな美味しい美味しいと言って食べてくれた。

午後は先日転倒した Tina が気になったのでずっと付いていた。でもやはりスタッフが大きな声で話したりすると落ち着かなくなる。静かな環境を求めている利用者なのに掃除機をかけ始めたりして落ち着きかけた Tina がその音に反応する。サイモンとガーファンクルの音楽を一緒に聞きながら先日 Visby に一緒に会議にでかけたスタッフと一緒に Tina に寄り添っていた。この日は帰る時まで落ち着きはしなかったが転倒は無かった。

利用者との距離感の取り方は本当に難しい。落ち着かせることを目的にするのではなく本人の感情に寄り添うことが大切とわかっていてもなかなかそれを実行するのは難しいと感じた。

今週は料理作りをしたり、車いすでの外出のケアや着衣の介助をするなど新しいことをさせていただき刺激的な時間を過ごすことができた。

来週でこの研修が終わると考えると切なくなる。せっかく築いてきた関係性をもっと深くしたいと感じる。







